

モーリタニア月例報告
(2023年3月)

2023年4月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 3月 5日 テロリスト4名の脱獄
- 3月11日 脱獄囚4名の無害化

【外政】

- 3月3日～13日 独はイスラエルとの関係正常化への働きかけを否定
モーリタニア政府はイスラエルとの接触を否定
- 3月30日 仏による対モーリタニア借款再開（「巨大な緑の壁」事業支援）

【二国間関係】

- 3月2日 間瀬アフリカ第一課長の来訪
- 3月9日 天皇誕生日記念レセプションの開催
- 3月15日 国費留学生壮行会の開催

【開発協力】

- 3月14日 令和4年度対モーリタニア無償資金協力「経済社会開発計画」のE/N署名

【その他】

- 3月29日 新型コロナウイルス感染症に係る水際措置の撤廃

【内政】

●テロリスト4名の脱獄

- 3月5日、テロ容疑で収監されているモーリタニア人テロリスト4名が、看守2名を殺害し、2名を負傷させてヌアクショット市刑務所から脱獄した。脱獄囚達は、看守達から武器を奪って犯行に及んだと伝えられている。
- 4名のテロリスト達は、脱獄後車両で逃走した。逃走に使用された車両は、ヌアクショットの北東に位置するダール・ナウム近郊で放置されているのが警察により発見された。警察は、車両が発見された地域を封鎖の上、脱獄囚の捜索を開始した。
- 4名の脱獄囚の情報に関しては以下のとおり報じられている。

- (1) 脱獄囚 1 人目の氏名はSaleck Ould El-Cheikh。ヌアクショット南部の爆発事件の実行犯であった。同氏は、当該爆発事件の捜査で、アブデル・アジズ前大統領の暗殺を試みたことが明らかとなり、大逆罪で死刑判決を受けていた。同氏は、2015年に一度刑務所から脱獄し、ギニアビサウまで逃走した過去がある。
- (2) 2 人目の氏名はMohamed El-Rasoul Chbih。2008年にズエラート近郊で発生し、兵士12名が死亡したテロ事件の実行グループのメンバーとされており、死刑判決を受けていた。
- (3) 3 人目の氏名はMohamed Yeslem Mohamed Mohamedou Abdullah。テログループに所属の容疑で懲役10年の判決を受けていた。
- (4) 4 人目の氏名は、Abdul Karim Abou Bakr As-Siddiq Abatne。テログループに所属の容疑で7年の判決を受けていた。

●脱獄囚 4 名の無害化

1. 国防省・内務省共同コミュニケ骨子（11日付モーリタニア通信）

- (1) 3月5日（日）夜にヌアクショット中央刑務所で警備隊2名の殉職者と2名の負傷者を出した卑劣なテロ作戦が行われ、4名のテロリストが逃亡したことを受け、脱獄者の早期捕獲についてガズワニ大統領からの指示もあり、ハイレベル治安委員会が結成され情勢分析・監視のために常時活動していた。
- (2) 入手した様々な情報を分析した結果、テロリストがアドラール州に潜伏している可能性があることが判明。当該情報の信ぴょう性を確認した後、航空部隊と地上部隊との連携を開始し、アクセスが困難な山岳地帯に避難していたテロリストの居場所を突き止めた。
- (3) 対テロ特殊部隊と憲兵隊は掃討・搜索活動で激しい銃撃にさらされ、テロリストとの対決を余儀なくされた。激しい対立により、3人のテロリストが死亡し、4人目が逮捕された。また、勇敢な英雄である憲兵1名が殉教者として死亡した。
- (4) ハイレベル治安委員会は、我が国の軍隊と治安部隊の全隊員に対し、質の高い作戦に対する感謝と祝福を表明する。また、我が国国民が奮起し、すべての人々が示した警戒心と建設的な協力精神に敬意を表する。

2. 時系列まとめ（12日付Sahara Media）

国家憲兵隊の精鋭部隊は、第一パラシュート部隊と空軍の支援を受け、脱獄囚4人を無害化することに成功した。治安筋によれば、11日（土）午前10時頃に開始された作戦により、逃亡者のうち3人を殺害し、1人を逮捕した。同作戦で憲兵1名が殉職した。

（10時）憲兵隊の精鋭部隊は、前日（金曜日）にアドラール州LEMSAYDI地域（Atar市から南方100kmの砂漠地帯。ヌアクショットの北東330km）で故障した不審車両に関する情報を得た後、脱獄囚4人を包囲。

（13時半）捕獲作戦が終了。情報筋によれば、4人のうち3人が無害化、1人が逮捕されたとの情報。また、脱獄囚との衝突に際し憲兵隊1名が死亡、同時に2名が負傷。

(14時半) 当該作戦は、GARS I (Groupe d'Action Rapide de Surveillance et d'Interventions) と呼ばれる国家憲兵隊精鋭部隊が、第一パラシュート部隊の支援を受け、Atar市の空軍基地から離陸した軍用機の支援を受けて実施されたことが判明。
(16時) 国防省、内務省、地方分権省による作戦終了の共同コミュニケ発表。

【外政】

●独はイスラエルとの関係正常化への働きかけを否定

1. イスラエルが独にモーリタニア・ニジェールとの仲介を依頼? (3日付当地民間サイト「Monitor Mauritanie」)

イスラエルの「Israel Hum」紙は、コーヘン・イスラエル外相がベアボック独外相に対し、イスラム教国のモーリタニア及びニジェールとイスラエルとの外交関係再開に向けて後押しするよう要請したと報じた。同紙によれば、コーエン外相は、ベルリンでの外相会談の中で、上記2国がイスラエルと良好な関係を築くために独が協力できることを確認した。また、コーヘン外相は、スーダンとの関係発展にも期待していると言及した。

2. コール独副外相の当地訪問 (8日付Anadolu Agency (トルコ系) 記事)

(1) 在モーリタニア独大使館の匿名の情報源によれば、「コール副外相の当地訪問は専ら両国の協力関係の促進のためであり、ガバナンスにおける女性の参加を高めることを目的としている」として、今回の当地訪問が、モーリタニアに対してイスラエルとの関係正常化の圧力をかけるもの、との見方を否定した。

(2) コール副外相は、3月5日～7日に当地訪問し、ビラール首相、メルズーグ外相、ティアレG5サヘル常設事務局長他と会談した。会談では、サヘル地域の安定したパートナーとしてのモーリタニアの役割や、G5サヘル議長国としてサヘル諸国間の協力関係の活性化に焦点があてられた。

●モーリタニア政府はイスラエルとの接触を否定

13日(月)、シュルーカ設備・運輸大臣兼スポークスマンは、閣議後記者会見の場にて報道陣に対し、「モーリタニアはイスラエルといかなる接触も行っていない。国交正常化の可能性については海外メディアが勝手に述べているだけであり、我が国は海外メディアで報じられている報道に興味はない。」と述べ、イスラエルとの国交の再開の可能性を否定した。

●仏による対モーリタニア借款再開 (「巨大な緑の壁」事業支援)

30日、リウ (Remy RIOUX) フランス開発庁 (AFD) 総裁の当地訪問に際して、「巨大な緑の壁」事業への融資を通じた対モーリタニア借款再開について発表された。

1. ガズワニ大統領会談後記者会見でのリウ総裁発言ポイント

(1) ガズワニ大統領との会談では、水、起業、教育、エネルギー、保健等の分野における2億ユーロを越えるAFDのポートフォリオについてレビューするとともに、2015年に中断した借款を再開することを伝達した。

(2) また、モーリタニアがG5サヘル議長国に就任したことを踏まえ、二国間協力や地域情勢にも議論が及んだ。今回の訪問では、サヘル同盟メンバーとして、近くヌアクショットで開催されるサヘル同盟（総会）で支援を表明し、地域で行われている投資を把握し、ロードマップとサヘルの新しい発展段階を想像すべく、サヘル全体の開発問題に対する我々の取組を確認した。

2. 「巨大な緑の壁」事業への支援合意

リウ総裁とカーン経済大臣との間で、「巨大な緑の壁 (Grande Muraille Verte)」事業への支援に関する合意文書が署名された。本件は、砂漠化及び土地劣化に対する地域コミュニティと生態系の回復力向上を目的としたもので、支援額（融資額）は800万ユーロ。

【二国間関係】

●間瀬アフリカ第一課長の来訪

3月2日、間瀬アフリカ第一課長が首都ヌアクショットを訪問した。当地滞在中、ラム・モーリタニア投資促進庁 (APIM) 長官、G5サヘル事務局、外務省二国間協力総局長、ヌアクショット魚市場局長等と意見交換を行った。



●天皇誕生日記念レセプションの開催

1. 3月9日、日本大使公邸において、天皇誕生日記念レセプションが開催され、モーリタニア政府を代表してメルズーグ外相、マイーフ漁業大臣が来賓として出席した。コロナ禍発生以来、初めて開催された今回のレセプションでは、モーリタニア政府、当地駐在外交団・国際機関、政治・経済・文化等の各界を代表する方々をはじめ、多くの参加者が来場した。
2. 内田大使は、テロリストの脱獄に際して殉職した犠牲者遺族に心から哀悼の意を表するとともに、平和と安定のために取り組んでいるモーリタニア政府および国民に敬意を表

しつ、日本とモーリタニアの友好関係の強化・深化に向けた取組みを強化する決意を新たにした。



●国費留学生壮行会の開催

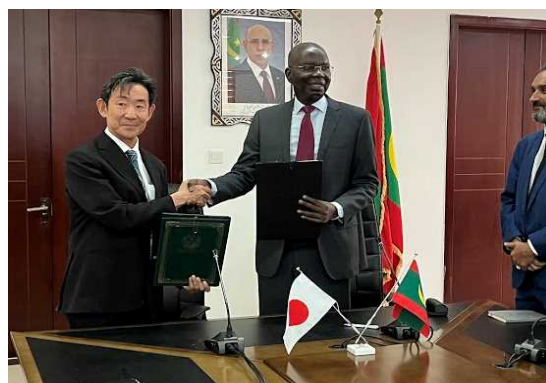
1. 3月15日夕方、大使公邸にて、近々日本に渡航予定の令和4年度選定国費留学生2名（Mme Verha Abd Selam, M. Jeddou Mohamed El Ghali）の壮行会を開催した。壮行会には、元国費留学生や元JICA研修生も参加した。
2. 内田大使は、今回の合格者2名に祝辞を述べるとともに、日本への安全な渡航と活躍を祈念した。来賓の方々からも、日本での経験が披露され、2人の門出を祝う言葉が相次いだ。



【開発協力】

●令和4年度対モーリタニア無償資金協力「経済社会開発計画」のE/N署名

1. 3月14日、内田大使、カーン経済・生産部門促進大臣の同席の下、令和4年度「経済社会開発計画」のE/N署名式が開催された。
2. 本件事業（供与限度額6億円）は、モーリタニア政府にトラクターや掘削機等の農業・灌漑用設備を供与することで、気候変動への適応能



力を強化し、農業生産量を増加させることを目的としている。モーリタニアでは、干ばつや洪水が頻発しており、館外等を通じた農地への継続的な給水、堤防の建設・修復による洪水の防止等、気候変動への適応策を強化することが急務となっている。

3. 内田大使は、本件事業を通じて、モーリタニアの農業生産の増進と社会経済の安定化に貢献し、両国の友好・連帯関係を更に促進することが期待される、と述べた。

【その他】

●新型コロナウイルス感染症に係る水際措置の撤廃

モーリタニア政府は、3月29日回章（内相、外相、保健相、運輸相の連名）で、新型コロナウイルスに係る水際措置の撤廃を公表した。

『モーリタニア国内において新型コロナウイルス感染症の流行が小康状態を保っていること、また、アフリカおよび世界的に流行が抑制されていることを踏まえ、旅行者に対する水際措置を以下のとおり緩和する。

- モーリタニア入国時のPCR検査陰性証明書及びワクチン接種証明証の提示・携行は不要。
- 目的地の国が求めない限り、モーリタニア出国時のPCR検査陰性証明書及びワクチン接種証明証の提示は不要。』